

BCPの備蓄機能としてクールコンテナの活用を提案 ～道の駅「猪苗代」で高機能・高付加価値コンテナの実装デモに参加しました～

AZ-COM丸和ホールディングス株式会社（本社：埼玉県吉川市、代表取締役社長：和佐見勝）のグループ会社で3PL事業（※1）を提供する株式会社丸和運輸機関（本社：埼玉県吉川市、代表取締役社長：和佐見勝）は、6月2日（金）～6月4日（日）に道の駅「猪苗代」で行われたイベント“わたしたちで創る、あたらしい「防災」のかたち”に参加しました。同じく当社グループ会社の株式会社丸和通運（本社：東京都荒川区、代表取締役社長：河田和美）が所有するクールコンテナを実装し、クールコンテナを活用した新しい備蓄方法についての提案等を行いました。

（※1）荷主に対し、その立場に立ったロジスティクスサービスを戦略的に展開する事業（一般社団法人 日本3PL協会）

<イベント開催概要>

日時：6月2日（金）、3日（土）、4日（日） 10:00～17:00

場所：道の駅「猪苗代」（〒969-3132 福島県耶麻郡猪苗代町堅田五百苅1）

<https://michinoeki-inawashiro.co.jp/>

実施内容：①高機能・高付加価値コンテナ（3種類）の展示・実演

民間企業の知恵と技術を結集し、平常時は地域の振興・活性化に役立つとともに、災害時は避難所生活のレベルアップに活用される可動式コンテナの展示

②医療・防災産業に係る医療・DX・ロボット室内デモ

主催：医療・防災産業創生協議会 / 後援：猪苗代町

<当社クールコンテナの実装デモ>

①低温コンテナ体験

災害食として冷凍食品を備蓄して避難所の食事の質向上を図る提案

②GPSによるコンテナ管理と備蓄管理の実演

遠隔での効率的なコンテナ管理（設定温度、庫内温度の確認・変更）

物流機器やシステムを活用した災害備蓄品の一元管理



<会議室での展示・説明会>

当社グループのBCP物流・備蓄管理システムの説明、クールコンテナ活用についての提案の様子



<取締役 執行役員 事業推進グループ長 小倉友紀からのコメント>

当社グループはコア事業である「EC物流」「低温食品物流」「医薬・医療物」に加えて「BCP物流」にも注力しています。BCP物流については、非常時において、安全・安心・安定した物流を提供するために同業の運送業者と連携し全国の災害物流網である「AZ-COM BCPネットワーク」を構築するなど、過去の震災などで積み重ねた支援活動のノウハウを活かして取り組んでいます。この度のクールコンテナ実装デモへの参加は、「BCP物流」の一環として、新しい備蓄方法のご提案となります。現状、避難所の問題の一つとして、“栄養問題”が挙げられます。おにぎりやパンなど冷たく硬い食事を配り続けるのではなく、温かい食事や汁物、栄養価の高い野菜、生鮮食品などを調理できる環境があれば食べやすさや食事による安らぎを提供できると考えます。当社グループのクールコンテナは、+20度～-25度の範囲で温度設定が可能ですので、例えば災害時にクールコンテナに冷凍・チルド食品を積んで避難所に輸送し、現地で調理することができないか、などの活用方法を提案しています。行政関係者や民間企業のご意見ご要望を参考にして避難所の課題解決と平時の利用方法について検討・提案を進めていきたいと考えています。

◆当該イベントについて

医療・防災産業創生協議会は、人々の安全・安心を守る取組として医療と防災を一体的に捉え、新たな産業領域としての「医療・防災産業」の創生に向けた活動を行っております。その取組として「命のコンテナ（技術の集結）プロジェクト」と銘打ち、可動式の高機能・高付加価値コンテナの実装・普及を行うことで、地域振興及び国土レジリエンス強化に寄与することを目指しております。今般、当該活動の第一歩として、猪苗代町、福島県、国土交通省東北地方整備局郡山国道事務所のご厚意（ご支援）の下、全国に先駆け、道の駅「猪苗代」（2021年6月「防災道の駅」に選定）において、高機能・高付加価値コンテナの実装デモを実施いたします。平常時と災害時のシームレスな利用を想定したコンテナの移動実演等も行います。

（医療・防災産業創生協議会の案内文より抜粋）